

今月の一言

キーワード：自分で体験

先生の一言「すぐに入院、ICUへ、2・3週間は入院せんなん！」「えー！本当に？仕事の予定がつまっているけど」先生は「心不全で心臓が、本来の機能の10%も動いていない状態で、安静にしておらんと大変なことになる」と言われ、ベッドに横になりすぐに注射・点滴などの治療が始まり監視状態となりました。まさか、先日お見舞いに来た、ICUに自分が入院するとは思ってもいませんでしたし、ベッドに横になり「ICU」に入ったときは大変ショックでした。ICUに3泊、循環器病棟の観察室に移動して2泊、個室に移動して15泊の長期入院となりました。体は、どこも痛くはない、腹は減る、個室に移動してもトイレ以外はベッドから降りるなど、まるで修行状態でした。

心臓の負担を軽減するための酸素マスクをするように言われて、24時間装着していました。最初は、マスクの着け心地は気にならなかったのですが長時間装着していると、ずれたりして気になり始め、鼻の上が擦れて赤くなってICUの看護師の方がパットを挟んで対応してもらいました。しかし、循環器病棟に移動すると、パットは必要ないやろと言われ捨てられてしまい残念でした。しかし、本当に必要なかったのです！循環器病棟では多くの患者さんが酸素マスクを使用して同じような症状になる方が多いので、看護師さんたちは、酸素マスクの使用目的・構造・特徴等をしっかりと勉強。快適に装着するにはどうしたら良いかを全員で体験し意見を出して装着の練習を行い確認しているそうです。些細なことかもしれませんが、患者としたり大変苦痛や嫌になることですが、チョットした心配りが気持ちよくしてくれるのだと感じました。「フ口集団やなあー！」と感じた一面です。そのほかにも、心配事や病気について丁寧に詳しく説明して不安を取り除いて元気にしてくれた“フ口の循環器病棟の看護師さん”ありがとうございました。

体験、心配り並びにコミュニケーション 建設業も、サービス業です。

2015年5月25日

さいのう とおる

追伸：自分は、大丈夫と過信しないで本当に健康管理をしましょう。